

令和2年3月3日

立川市議会議長 様

会派名 公明党
質問者 瀬 順弘

文 書 質 問 書

立川市議会文書質問取扱要領第4条の規定に基づき、次のとおり文書による質問を提出いたします。

1 質問項目及び内容

- (1) 共生社会の実現に向けて
 - ①パラリンピックについて

- (2) 災害に強いまちづくりについて
 - ①災害に対する対応について
 - ②防災・減災対策について

- (3) 姉妹市大町市について
 - ①北アルプス国際芸術祭2020について

2 質問の趣旨及び理由

- (1) 共生社会の実現に向けて
 - ①パラリンピックについて
 - a. パラリンピックを契機に、誰もが自分らしく生きられる共生社会の実現へと、社会の意識を変容する大きなチャンスにしていかなければならないと考えるが、立川市の考えるパラリンピックのレガシーとは何か。
 - b. パラリンピックの成功に向けては具体的にどのようなことに取り組んでいくおつもりか。

(2) 災害に強いまちづくりについて

①災害に対する対応について

②防災・減災対策について

- a. 防災無線が聞こえない、聞こえづらいとの声が多く、前回定例会で「保守業者と調査実施に向け打ち合わせを行っており、解消方法についてもアドバイスいただく」との答弁であったが何か進展しているのか。
- b. 市民への情報発信ツールとして、メール、SNS、ホームページなどを活用されているが、台風19号の時に混乱が生じていたことから、前回定例会で、複数の情報媒体に一括送信できるシステムを紹介し導入を提案したが、その後の検討状況は。
- c. 大雨や洪水の恐れがある時に、市民の方が危険な川へ見に行かないで済むよう、河川を確認できるライブカメラの増設を要望していただきたいと前回定例会で求めたが状況はいかがか。
- d. 避難に支援が必要な方への対策は喫緊の課題であり、前回定例会で「バスやタクシーなどの交通事業者に移動支援をしていただく協定を結べないか」と提案したが進捗はいかがか。
- e. ほとんどの避難所は車での避難ができず、車で行ける避難所が欲しいとの声が多くあったが、検討状況はいかがか。

(3) 姉妹市大町市について

①北アルプス国際芸術祭2020について

- a. 2017年、北アルプス国際芸術祭の開催前に一般質問で、折角の機会なので交流を深めるきっかけとなるよう考えていただきたいと質問し、「協力・連携できることを模索していきたい」との答弁であったが、具体的に連携や協力はあったのか。
- b. 連携・協力があつたとすれば、立川市民や立川市にとって、どのような成果・効果があつたと考えるのか。
- c. 本年、北アルプス国際芸術祭2020が開催されることから、今回の芸術祭においても積極的に連携協力すべきと考えるが、何か考えておられるのか。

3 回答を求める者

立川市長

文書質問回答書 瀬 順弘議員

1. 共生社会の実現に向けて

①パラリンピックについて

本市では、これまで、体育協会やスポーツ推進委員などの様々な団体と連携して、障害のある方も継続して参加できる障害者スポーツの教室や、障害者スポーツを体験できるイベント、さらには、障害者スポーツの指導を行う際のノウハウを学ぶ研修会を開催してまいりました。本市が考えるパラリンピックを通じたレガシーは、これまでの取組の目的でもある「障害者スポーツの普及と障害者スポーツを通じた障害のある方への理解を促進」という点にあると考えております。

また、オリンピックの終了後、パラリンピックにおいても、開会式に向けて聖火リレーが実施されます。パラリンピックでは、全国各地の火が東京で一つに集められ、パラリンピック聖火リレーの火となります。本市では、8月23日(日)に、パラリンピック聖火リレーが実施され、パラリンピックの聖火リレーを記念する銘板や大会マスコット像の設置のほか、市民が競技会場で応援できる観戦事業や、コミュニティライブサイトの開催について準備を進めており、パラリンピックの開催を通じて市民の心に残る取組としてまいります。

2. 災害に強いまちづくりについて

①災害に対する対応について

昨年10月に関東地方を直撃した台風19号では、河川の氾濫など、各地に大きな爪痕を残しました。本市におきましても避難所を25か所開設し、最大で854名の方が避難されました。全庁を挙げての災害対応が大事であり、令和2年度からは、新たに「危機管理対策室長」の職を市民生活部長兼務で置き、市民や関係機関等への周知とともに、より一層の危機対応の充実を図ってまいります。

また、災害対応につきまして、議会や市民の方々などから、多くの意見等が寄せられたことを踏まえ、現在、庁内で構成する各班で具体的課題の洗い出しと検討を行っており、今後、これらをまとめ、議会への報告を経て、地域防災計画の改定につなげてまいります。

②防災・減災対策について

防災行政無線につきましては、保守点検業者による音達シミュレーションとともに、実際に最新のスピーカーを設置しての音達調査を行ったところでもあります。現在、難聴地域解消に向けた「防災無線の新設」や「最新のスピーカーの配置」の検討をしております。

また、各ツールの一括送信につきましては、2月に先進自治体へ広報課を中心に視察を行い、本市のシステムで導入可能か検討を行っているところでもあります。

多摩川及び残堀川のライブカメラの増設につきましては、国土交通省京浜河川事務所に多摩川のライブカメラの増設及び映像公開の要請を直接、所長に行うとともに、残堀川を管理する東京都に対し、滝下橋付近への増設の要望を行ってきております。

また、これまで緊急車両や物資搬入車両の通行の妨げとなるため、避難に車を使わないように周知をしておりましたが、台風19号の災害対応では、車で避難ができる避難所開設の要望が多かったため、第二中学校と第六中学校付近の市所有の駐車場を開放しました。

しかし、今回の台風のように学校が休みの時とは限らないことから、新たな学校以外の

避難所を開設する方向で、現在、具体的な検討をすすめております。

避難行動要支援者の避難につきましては、地域住民や事業者等の支援や協力が必要であると考えており、啓発等に取り組んでいるところです。車を活用した支援につきましては、立川市内において、地震、風水害その他の災害が発生、または、発生するおそれがある場合、可能な範囲で要支援者を避難先に移送する支援協力を申し出ていただいたタクシー事業者1社と、令和2年3月10日に、災害時における災害活動等の支援に関する協定を締結いたしました。今後は、他の事業者へも働きかけを行ってまいります。

3. 姉妹市大町市について

①北アルプス国際芸術祭 2020 について

大町市の「北アルプス国際芸術祭 2017」につきましては、ファーレ立川アートのアートプランナー・北川フラム氏が総合ディレクターを務め、平成29年6月4日から7月30日までの57日間にわたり開催されました。

オープニングセレモニーには姉妹市の市長として参加するとともに、本市の公募市民40名が「大町アートレポーター」として、事前学習を経たのち、7月の2日間で同市を訪れ、芸術祭参加作品を巡りました。その後、参加者の報告レポートを8月の1週間、市役所多目的プラザで展示し、大町市へも送付いたしました。

また、「ファーレ立川アートミュージアム・デー2017春」（3月18日開催）でプレイベントとして、アートを通じた交流の一環として屋外インスタレーションとワークショップを行い、作られた作品を同芸術祭で展示するなど、本市と大町市をアートで繋ぐイベントを行いました。

「北アルプス国際芸術祭 2017」開催による本市にとっての成果や効果につきましては、芸術祭開催を契機に本市の市民が大町市を訪れ、食や観光など、様々な場面で交流を深めることができ、より両市の文化への理解や親睦が深まったものと考えております。また、ファーレ立川アートプランナーの北川フラム氏が芸術祭の総合ディレクターを務め、ファーレ立川アートの世界的な3人の作者が参加するとともに、交流大使の山下洋輔氏のコンサートも開催されたことなどから、文化芸術を通じたつながりや広がりにも寄与しているものと考えております。

「北アルプス国際芸術祭 2020」につきましては、本年3月20日（金・祝）の「ファーレ立川アートミュージアム・デー2020春」にて、同芸術祭に関する展示等により、立川市民に向けた事前の周知・宣伝を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、両市の開催が見送りとなりました。そのため、北アルプス国際芸術祭 2020 につきましてはスケジュールの再調整を行っているところですが、本年秋頃に延期して開催予定とお聞きしていますので、本市のファーレ立川アートや観光等に関連するブースを出し、大町市民やアートファンの方々へシティプロモーションの一環として本市にも来訪してもらえるような取り組みを考えております。同芸術祭では、パフォーマンスの一つとして、旧多摩川小学校の運営事業者「たちかわ創造舎」の倉迫康史氏演出による屋外演劇も上演される予定と伺っていますので、立川を知っていただく機会が増えるものと期待しております。